

コスト・ラム口 कस्तौ राम्री

特定非営利活動法人徳島ネパール友好協会・通信No.25

(すばらしい)

ブジュン村小水力発電所完成20周年記念写真展 ～ネパール・徳島（日本）友好の20年～

Photo Exhibition of 20years of Friendship between Nepal and Tokushima (Japan)

ブジュン村小水力発電所の建設支援のため設立された徳島ネパール友好協会 (TONFA)。その発足当初より、カウンターパートとして「ネパール徳島（日本）友好協会 (NT(J)FA)」が設立され、さまざまな活動を展開してきました。設立20周年の2017年には、その活動状況を写したパネルを中心に「ネパール展2017」を開催し、県民の皆様にもネパールや我々の活動等お知らせしたところです。

この度、ネパール徳島（日本）友好協会とともに、ブジュン村小水力発電所完成20周年記念行事として、カトマンズにおいてこれまでの活動を振り返る「写真展」を開催しました。また、合わせて、今ネパールの子供達が考える日本との友好をテーマとした絵画コンクールが開催されましたので、合わせて報告します。

11月23日 谷口、杜、坂口ほか観光主体の植田夫妻の計5名で、徳島港より和歌山経由で関西国際空港へ向かい、14時前に復活した直行便に搭乗。大半がネパールの方々ようで、日本人はわずか。約7時間でカトマンズに到着。ビザ用書類と写真を用意していたがIoT化の進展により不要となっていた。例の如く、ビシュヌ会長らの出迎えを受け、タメル地区のホテル・ローズマリーホームズで向かい、近くの「ふるさと」で喉と小腹を満たす。

11月24日 早朝、植田夫妻は、ポカラ、チトワン、ルンビニへの観光に出発。残りの3名は、マッラ・ホテルでの合同ミーティング (Joint Meeting of NT(J)FA & TONFA) に向かう。朝食後、コーディネーターの倉内氏も加わり日本側4名、ネパール側10名の役員で、スレンドラ君の通訳を介し、今後の活動等について打合せ。

午後、ネパール美術アカデミー (Nepal Academy of Fine Arts) の展示会場に向かうが、先に開催していた中国水墨画展示行事が延び、結局設営までには至らなかった。夜は、NT(J)FAの役員の方々ともふるさとにて夕食会 (以後、連日このパターンとなった。)



開会セレモニー

11月25日 両協会の役員にホームステイで徳島へ来ていた子供達 (今は立派な若者達) も加わり100枚以上の写真を展示。大半のデータは徳島から古い写真もデータ化し電子データで送ったもので、各写真の説明書きも現場で印刷するなど、時代の流れを実感。

11月26日 朝からスーツ姿で開場へ迎う。展示会場の外にはステージができあがっており、10時過ぎから文部科学大臣もお迎えし開会セレモニーの後テープカットで開場。カトマンズを中心に多くの学校から生徒達が来場し、写真展見学後、ネパールと日本との友好をテーマとした水彩画を描き、コンテストに出品。生徒達の受付や記念品の配布等ホームステイに来ていた学生達が担ってくれていた。



写真展展示会場



絵画コンクールに向け絵を描く生徒達

途中、役員の方々と学校訪問（Gems School）に出かける。それなりに整備された教室など見学の後、大勢の生徒が集まる講堂に入ると拍手で歓迎を受け、生徒による民族舞踊も見せてもらう。学校関係者から、宿舎と食事は用意するので、日本語教育のボランティアを派遣してほしいとの要望を受ける。



Gems School



Little Angels' School

11月27日 写真・絵画展2日目。トレッキングチームも来場し、学校訪問（Little Angels' School）にも参加。学校長やビシュヌ会長の挨拶の後、スピーチで、「日本に学ぶべき点もはあるとは思うが、ネパールには多くの子どもと一生懸命学ぶ皆さんがいる限り、将来は明るい。」といった率直な感想を述べる。展示会場に戻り撤収に入る。写真の大半をブジュン村へ寄贈するため、整理しながら分厚い緩衝シートも使って梱包する。着替えるまもなく、マッラ・ホテルに向かい記念セレモニーに参加。

ビシュヌ会長やブジュン村出身者、来賓としての元駐日ネパール大使の挨拶で、徳島や日本との揺るぎない友好などについて発言されていた。その後、感謝の縦や絵をいただく。

また、絵画コンクールで入賞した生徒3名も親とともに参加し、メダルと記念品をもらっていた。さらに、訪問した学校関係者を始め多くの方が、新たにネパール徳島(日本)友好協会の終身会員(Life Member)として認定され、会員証(のようなもの)が授与されていた。その後、会場を中庭に移し、盛大なガーデン・パーティが催され、大いに盛り上がった。



記念セレモニー



コンクールで入賞した生徒達



入賞作品



ガーデンパーティを楽しむ人々

11月28日 朝から写真の整理の続きをして、ブジュン村訪問者が乗るバスに積み込む。その後、植田夫妻と合流し、ガイドのスイティ(Swety)さんの案内で、2016年2月に震災後の状況調査の際に訪問したコカナ地区の女性支援組織（Khokana Women Awareness society）へ行き、活動状況等について聞く。以前に比べ、海外からの助成金が削減されたことから活動そのものを縮小しているが、織物や編み物の作製、保健生活指導、働く女性のための保育園の運営など多彩な活動をされていた。

夜、ふるさとにて、NT(J)FA 役員6名の方々と今後の活動について協議。

11月29日 朝からカトマンズ市内観光。ビシュヌ会長ら役員の方々とホテル・ヒマラヤでお別れの昼食会、今回の旅行で初めてダルバートを食べる。夜、空港まで送ってもらって、深夜の直行便で無事帰国。
(記：谷口安孝)

ブジュン村小水力発電所20周年記念式典参加 ～変わりゆくブジュン村報告～

小水力発電所完成20周年を記念するため、8年ぶりにブジュン村を訪問した。

11月29日 前泊したベシサハールを早朝に出発。ブジュン村のみ訪問する4名(杜, 坂口, 吉本, 倉内)とトレッキング隊6名が2台のジープに分乗。道路もずいぶん良くなり一部舗装までされている。マナスル3山やラムジュンヒマールが遠望できるガレガオンについてビックリ。観光バスが5台も駐車しており、周辺では生徒や若者が大勢散策しているではないか。なんと都市部から遠足で来た生徒達だという。また、何台ものジープで若者達が来るのにも出会った。

昼頃、ブジュン村より上に位置する学校と村の中間点の駐車場に到着。村への道を下るにつれ歓迎の村人が増え恒例の花輪で首の上まで一杯。初めて参加した人たちはこの歓迎に目を白黒させていた。

午後2時から集会所での20周年記念式典や歓迎式典が開催された。ナラヤン・グルン村長やその他のスピーチとプレゼント交換など大勢の村人の中で行われた。その後、飲食や踊りで盛り上がった。



集会所に集まった人々



プレゼントの交換



建設中のミュージアム



翌日、トレッキング隊は出発し、我々は発電所とその施設、建設中の徳島ミュージアム(仮称)、索道、村の中と周辺などを見て回った。途中、民宿の看板を掲げた民家や、下の川まで延びた道路など以前との様変わりには驚く。民宿では10人余りの若者が遊んでいるのも初めての光景である。夕方の村から出る煙が非常に少なくなったこともびっくり、なんと家庭の燃料がLPGに変わっている。また照明がLEDとなり全体が明るくなっていた。

12月1日 早朝に別の駐車場(ミュージアムのすぐ上)からカトマンズへ向かった。私が生まれた神山町奥地の昭和30年代初めの光景を見るようであった。

見た風景の変化や村の人たちの話から次の点が心配される。

- ① 道路の建設(村から下の川まで2本と、対岸の尾根からポカラまでの直通道路も建設中。)がいわゆるブルドーザーによる突き飛ばし工法であり、大規模な崩落で村中破壊される恐れがある。
- ② 計画または測量など進行中の発電所計画が3か所あるとのこと、その内200kWのものは村営での建設、その上流にできる7,500kW相当のものは地形的に急峻でありそこからの受電は80kWと小さいこと、また最下流のものは15,000kW規模と大きいことなどから、これらの建設に伴う崩落等の危険や受益のあり方の問題などが危惧される。
- ③ 村は観光振興での繁栄を構想しており、現状でも年間2万人弱の客が訪れているとのことであり、このため対岸の滝の開発やミュージアムを考えているが計画どおりにうまく行くのか。
- ④ 自給的経済から貨幣経済への移行となり、ますます出稼ぎの頼ることで家庭崩壊などが心配される。

(記: 杜 和彦)



進む道路建設

2019年 第2回 ブジュン・トレッキング報告

11月26日から11日間の日程で、本年2回目となるブジュン・トレッキングを実施しました。参加者は、早田・小西・関口・南・森田・森田の計6名。シェルパ(サーダー)は1回目につき、Phurba Sherpa(フルバ・29)、コックはNurba Sherpa(ヌルバ・25)ほか6名がカトマンズから加わり、ポーターとしてブジュン村から9名計23名のトレッキング隊。今回は天候にも恵まれ、多くのシェルパ達の素晴らしいサポートもあり、大変充実したものとなりました。

11月26日 関西国際空港9:00 - (CZ394) - 12:10 広州18:10... (CZ3067)... 21:25 トリブバン国際空港
ホテル・ローズマリーホームズ泊

11月27日 カトマンズ滞在。Little Angels' school 訪問。20周年記念式典参加。 ホテル泊

11月28日 カトマンズでの記念行事を終え、ブジュンに運ぶ展示物を載せてベシサハールで一泊。

カトマンズ11:30 = 13:20 ガウチ・昼食 14:20 = 19:30 ベシサハール
モンゴリアン・ゲストハウス泊

11月29日 ブジュンに入り、いつもの村人総出の大歓迎を受け、そのまま記念式典に臨む。

ベシサハール6:40 = 8:00 ラバシ・朝食8:50 = 9:30 ガレガオン9:45 = 10:30 ブジュン
スージャンロッジ泊

11月30日 快晴の中トレッキングに出発。途中、うどんの昼食をとり、2月にも泊まった標高2660mの台地で泊まる。テント地からは夕日に輝くマナスルの大展望が広がる。

ブジュン 8:10 ... 9:20 標高2000m 10:00 ... 11:00 2170m・昼食 12:30 ... 13:45 2459m 14:15 ...
14:45 テルブルグ尾根2660m テント△泊

12月 1日 快晴。ブジュン展望ピークを経て、2900mの小屋のところでスパゲッティの昼食。急坂を登り詰め、東に張り出した3130mの尾根で泊まる。マナスルが一段と大きい。

△ 8:20 … 9:00 2744m 9:05 … 9:20 2820mピーク 9:30 … 10:10 2900m小屋・昼食 11:35 … 12:30 3062m 12:35 … 13:10 3130m △泊

12月 2日 快晴。今日は軽い荷物で、できる限り高みを目指すことにする。まだ暗いうちに出発。快調に登り、3533mの小屋で軽食。さらに登り富士山より高い3849mのピークに達する。

マナスルはますます大きい。ここで引き返し3130mのキャンプ地まで戻るが、軽い高山病の兆候もあり、少々ハードだが2459mのコルまでの下山を決断。疲れもあり到着は17:20と行程13時間の長丁場となった。

△ 6:20 … 7:10 3213m 7:15 … 7:55 3310m 8:10 … 8:50 3400m 9:00 … 9:25 3533m小屋 9:40 … 10:05 3653m 10:15 … 11:10 3849mピーク 11:35 … 14:10 △・昼食 14:50 … 15:40 2900m小屋 15:50 … 16:55 2660m△ … 17:20 コル2459m △泊

12月 3日 朝はガスの中。それでも歩くうちに天気が回復し、2月に最後に泊まった2515mの丘では、マナスル、ラムジュン・ヒマール、アンナプルナⅡも姿を見せた。学校に向けて尾根を下り、プリティー先生の授業を見学して、無事ブジュン村に下りつく。

△ 8:15 … 8:45 2515m展望ピーク 9:10 … 10:10 2010m 10:20 … 10:45 ジープ道 11:05 11:35 学校 12:10 … 12:40 ブジュン 午後 小水力発電所往復 スージャンロッジ泊

12月 4日 カトマンズへ移動。

ブジュン6:00 = 7:30 ラパシ・朝食 8:00 = 9:00 ベッシサハール 9:40 = ドウムレ 11:15 = 13:30 マレク・昼食 13:50 = 16:10 カトマンズ ローズマリーホームズ泊

12月 5日 早朝よりマウンテン・フライト。天気に恵まれ、エベレストの雄姿が鮮やかに望まれた。30年前に登頂したアイランド・ピークも！ その後、買い物のほかホテル・ヒマラヤでビシュヌさんのお別れ昼食会に参加。夜の飛行機でネパールを後にする。

トリブバン国際空港 22:40 - (CZ3068) -

12月 6日 - 4:45 広州 8:25 - (CZ389) - 12:35 関西国際空港

(記：早田健治)



夕日に輝くマナスル3山



富士山より高い3,849m峰より望むマナスル3山とラムジュンヒマール

編集後記

今回、ネパール徳島(日本)友好協会の方々とともに、盛大に20周年の記念行事を実施することができました。また、ブジュン村訪問やトレッキングなどでもそれぞれ思い出深い訪問であったと思います。

一方、ネパールを訪れる日本人が以前に比べ格段に少なくなっており、中国との結びつきが、良きにつけ悪しきにつけ深まっているように感じました。

こうした状況にあります。当徳島ネパール友好協会への期待は年々高まっています。

また、徳島県が、東京2020オリンピックの事前キャンプ地にも決まり、さまざまな活動が計画されています。

そのため、県内での活動とともに、ネパールを訪れる人を増やし、一層交流を深めて参りたいと思いますので、引き続き御支援、御協力よろしくお願いたします。



特定非営利活動法人 徳島ネパール友好協会
Tokushima Nepal Friendship Association(NPO)

〒779-3211 徳島県名西郡石井町藍畑西覚円718番地5

電話:088-675-0835 FAX:088-674-4168

ホームページ <http://www.tokushima-nepal.jp/>

電子メール info@tokushima-nepal.jp

会費・寄付金納付先:阿波銀行石井支店(402)普通1264552

ゆうちょ 記号16290 番号16731481

